

## 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)  
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

REC'D 28 NOV 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の登録記号 FP-04014PC	今後の手続きについては、様式PCT／IPEA／416を参照すること。	
国際出願番号 PCT／JP2004／014619	国際出願日 (日. 月. 年) 05. 10. 2004	優先日 (日. 月. 年) 16. 10. 2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> B05C17/02, A46B3/00		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社クラレ		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_ ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a. ☐ 附属書類は全部で \_\_\_\_\_ ページである。
- ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
- ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b. ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ （電子媒体の種類、数を示す）。  
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。  
（実施細則第802号参照）

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- |                                     |     |  |
|-------------------------------------|-----|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第Ⅰ欄 | 国際予備審査報告の基礎  |
| <input type="checkbox"/>            | 第Ⅱ欄 | 優先権  |
| <input type="checkbox"/>            | 第Ⅲ欄 | 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成                      |
| <input type="checkbox"/>            | 第Ⅳ欄 | 発明の単一性の欠如  |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第Ⅴ欄 | PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 |
| <input type="checkbox"/>            | 第Ⅵ欄 | ある種の引用文献   |
| <input type="checkbox"/>            | 第Ⅶ欄 | 国際出願の不備  |
| <input type="checkbox"/>            | 第Ⅷ欄 | 国際出願に対する意見   |

国際予備審査の請求書を受理した日 21. 02. 2005	国際予備審査報告を作成した日 01. 11. 2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 関谷 一夫	3 F	3513
	電話番号 03-3581-1101 内線 3351		

機式PCT/IPEA/409 (表紙) (2005年4月)

## 第 I 欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願  
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文  
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))  
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))  
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-14	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	7	有
	請求の範囲	1-6, 8-14	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-14	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

- 文献1: 日本国実用新案登録出願 55-155180 号 (日本国実用新案登録出願公開 57-76879 号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (服部 章平) 1982.05.12, 全文, 第1-11図  
 文献2: JP 2003-170107 A (柏原塗研工業株式会社, 株式会社ベンチャーサポート, 大塚刷毛製造株式会社) 2003.06.17, 段落【0015】, 第2図  
 文献3: JP 2003-289910 A (株式会社クラレ) 2003.10.14, 段落【0012】～【0014】  
 文献4: JP 2002-1200 A (勝山 雅彦) 2002.01.08, 全文, 第1-3図  
 文献5: JP 11-19573 A (宮岡 厚) 1999.01.26, 段落【0018】, 第4図  
 文献6: JP 2002-302863 A (株式会社クラレ, 松岡織物株式会社, 大塚刷毛製造株式会社) 2002.10.18, 段落【0027】～【0032】, 第1-2図

請求の範囲1-6, 11, 13に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-3により進歩性を有しない。文献1に記載された、チューブ状ローラー芯材にスパイラル状に巻着して取り付けられた交換可能な表面材を有するペイントローラーに、文献2に記載された、刷毛の表面材を面ファスナーで取り付けることを適用することは、当業者にとり容易である。そして、文献3には面ファスナーの係合素子の高さを1.3～4.0mm、係合素子の密度を20～200個/cm<sup>2</sup>とすることが記載されており、面ファスナーの係合素子の高さ及び密度を本願請求の範囲1-6, 11, 13に係る発明のようにすることは、当業者にとり設計的事項である。

請求の範囲7に係る発明について、国際調査報告で引用されたいずれの文献にも、ペイントローラーの表面材を面ファスナーにより所定のパターンで取り付けことは記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲8-10に係る発明は、文献1-3及び国際調査報告で引用された文献4により進歩性を有しない。文献4には、ペイントローラーのローラー芯材を、チューブ状体の表面にテープ状部材をスパイラル状に巻着して形成することが記載されており、この点を、文献1-3に記載された発明に適用することは、当業者にとり容易である。

請求の範囲12に係る発明は、文献1-3及び国際調査報告で引用された文献5により進歩性を有しない。文献5には、ペイントローラーにループを有する繊維糸条により製編織して形成された表面材を用いることが記載されており、この点を、文献1-3に記載された発明に適用することは、当業者にとり容易である。

請求の範囲14に係る発明は、文献1-3及び国際調査報告で引用された文献6により進歩性を有しない。文献6には、ペイントローラーに、地組織中で熱融着性繊維同

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V.2 欄の続き

士が熱融着した表面材を用いることが記載されており、この点を、文献 1-3 に記載された発明に適用することは、当業者にとり容易である。